



Photo: Ivy Chen

フェスティバルトーキョー実行委員会  
顧問 野村 萬 公益社団法人 日本芸術家演劇団体協議会 会長  
能楽師  
株式会社資生堂 名誉会長  
名誉実行委員長 高野之夫 豊島区長  
実行委員長 福地茂雄 公益財団法人 新国立劇場運営財団 顧問 アサヒビール株式会社 社友  
副実行委員長 市村作知雄 NPO法人 アートネットワーク・ジャパン 顧問  
フェスティバルトーキョーディレクター  
小澤弘一 豊島区文化商工部長  
東澤 昭 公益財団法人 としま未来文化財団 常務理事 / 事務局長  
委員 尾崎元規 東京府立大学 大学院国際芸術創造研究科 教授 花王株式会社 顧問  
野村作知雄 東京府立大学 大学院国際芸術創造研究科 教授  
田中博宏 株式会社資生堂 企業文化部長  
鈴木敦子 アサヒグループホールディングス株式会社 CSR部門 ジェネラルマネージャー  
鈴木正美 東京商工会議所 豊島支部 会長  
永井多恵子 公益財団法人 せたがや文化財団 理事長  
樋口友久 豊島区文化商工部文化デザイン課長  
岸 正人 公益財団法人 としま未来文化財団 劇場開設準備担当課長  
蓮池尚純子 公益財団法人 としま未来文化財団  
あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター) 支配人  
米原晶子 NPO法人 アートネットワーク・ジャパン 理事長  
蓮原円花 フェスティバルトーキョー 事務局長  
河合千佳 フェスティバルトーキョー 副ディレクター  
監事 佐々木美津子 豊島区総務部 総務課長  
法務アドバイザー 福井健策 (骨董通り法律事務所)  
フェスティバルトーキョー実行委員会事務局  
ディレクター 市村作知雄  
副ディレクター 河合千佳  
事務局長 蓮原円花  
制作 十万葉紀子、荒川真由子、砂川史織、松宮俊文、三平文乃、横井貴子、武田侑子、岡崎由美子、藤井友理、細川浩伸、長田崇史、岡宮章吾、山縣昌雄、横尾千穂  
広報 堀久美子  
経理 米原晶子、平田幸来  
票券 武井和英  
技術監督 廣川英司  
技術監督アシスタント 河野千鶴  
照明コーディネーター 佐々木真壽子 (株式会社ファクター)  
音響コーディネーター 相川 晶 (有線会社サウンドウィーズ)  
アートディレクション 氏家啓雄 (有線会社氏家プランニングオフィス)  
イラスト naomi@paris.tokyo  
ウェブサイト 竹下雅哉 (有線会社氏家プランニングオフィス)  
ブックレット 陸奥 剛 (FLAGS)  
当日パンフレット 小林 剛 (UNA)  
海外広報・翻訳 ウィリアム・アンドリュース  
物販 渡辺 洋  
演目紹介執筆 鈴木理絵子  
プログラム・コーディネート 横畑広彦  
中国プログラム・コーディネート 小山ひとみ  
ウェブマガジン編集 島貫幸介  
インタビュー 石川 優、井上 蓮、岩井美菜子、落井理美、梅村真由、柴 卓然、方瀬りっか、北村汐里、工藤 鈴、奥山なつみ、クナレ美、上岡啓奈、呉 芳雄、小林礼乃、小林春香、澤みずき、鶴田真菜、寺田 蓮、西 菜津子、西本彩乃、野口明日香、能登登子、野本ひとみ、橋本 葵、林美沙希、嵯峨等乃、宮岡夏希、村上珠美、山本菜奈、山本実穂、横見咲幸  
スペシャルサンクス 財サポーターのみなま  
主催 フェスティバルトーキョー実行委員会  
豊島区 / 公益財団法人 としま未来文化財団 / NPO法人 アートネットワーク・ジャパン、  
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)  
オーブンニングプログラム共催 国際交流基金アジアセンター  
協賛 アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社資生堂  
後援 外務省、公益社団法人 日本芸術家演劇団体協議会、J-WAVE 81.3 FM  
特別協力 西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、  
株式会社サンシャインシティ、チャコット株式会社、株式会社ヒューマックスシネマ  
協力 東京商工会議所 豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区認可連合会、  
一般社団法人 豊島区観光協会、一般社団法人 豊島産業協会、  
公益財団法人 豊島法人会、池袋西口商店街連合会、  
特定非営利活動法人 ゼファア池袋まちづくり、池袋西口公園活用協議会、  
南池袋公園をよくする会、ホテルメトロポリタン、  
ホテル グランドシティ、池袋ホテル会、  
株式会社ポスターハリス・カンパニー、  
早稲田大学 研内博士記念演劇博物館、アップリンク  
平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業  
(池袋/としま/東京アーツプロジェクト事業、としま国際アートフェスティバル事業)   
会期 2017 (平成29) 年9月30日 (土) ~ 11月12日 (日)

フェスティバルトーキョー17は東京芸術祭2017の一環として開催されます。



編集・発行: フェスティバルトーキョー実行委員会事務局 〒171-8031 東京都豊島区百石5-24-12 旧真和中学校4F TEL : 03-5961-5292 http://www.festival-tokyo.jp/

Festival/Tokyo Executive Committee  
Advisors: Man Nomura (Chair, Japan Council of Performers Rights & Performing Arts Organizations; Noh actor) Yoshihara Fukuhara (Honorary Chair, Shiseido Co., Ltd.)  
Honorary President of the Executive Committee: Yukio Takano (Mayor of Toshima City)  
Chair of the Executive Committee: Shigeo Fukuchi (Advisor, New National Theatre Foundation, Senior Alumnus, Asahi Breweries, Ltd.)  
Vice Chairs of the Executive Committee: Sachio Ichimura (Advisor, NPO Arts Network Japan; Director, Festival/Tokyo) Keichi Ozawa (Director, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City) Akira Touzawa (Secretarial Director, Toshima Future Culture Foundation)  
Committee Members: Motoki Ozaki (President, Association for Corporate Support of the Arts; Corporate Advisor, Kao Corporation) Sumiko Kumakura (Professor, Department of Musical Creativity and the Environment, Tokyo University of Toshiiro Tanaka (General Manager, Corporate Culture Department, Shiseido Co., Ltd.) Atsuko Suzuki (General Manager, Corporate Social Responsibility Section, Asahi Group Holdings, Ltd.) Masami Suzuki (Chair, Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima) Taeko Nagai (Chair, Setagaya Arts Foundation) Tomohisa Higuchi (Director, Cultural/Design Section, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City) Masato Kishi (Manager, New Theater Opening Preparation Room, Toshima Mirai Culture Foundation) Naoko Hasuike (Toshima Mirai Culture Foundation; Executive Director, Ovispot Theater) Aiko Yonehara (Representative, NPO Arts Network Japan) Madoka Ashihara (Administrative Director, Festival/Tokyo) Chika Kawa (Vice Director, Festival/Tokyo)  
Supervisor: Mitsuko Sasaki (Director, General Affairs Section, General Affairs Division, Toshima City) Legal Advisors: Kensaku Fukui, Hisako Kitazawa (Otto Dori Law Office)  
Festival/Tokyo Executive Committee Secretariat  
Director: Sachio Ichimura  
Vice Director: Chika Kawai  
Administrative Director: Madoka Ashihara  
Production Coordinators: Akiko Juma, Mayuko Arakawa, Shiori Sunagawa, Toshifumi Matsumiya, Ayano Misan, Takako Yokai, Yoko Takeda, Yumiko Okazaki, Yurii Fujii, Hironobu Hosokawa, Takashi Osada, Shogo Shinomiya, Masao Yamagata, Chiko Yokoo  
Public Relations: Akiko Ogura, Mami Kaminaga  
Accounting: Kamiko Tsutsumi  
Administrators: Aiko Yonehara, Saki Hirata  
Ticket Administration: Kazumi Takai  
Technical Director: Eiji Torakawa  
Assistant Technical Director: Chizuru Kouzo  
Lighting Coordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)  
Sound Coordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)  
Art Direction: Yoshie Ujije (Ujije planning office)  
Illustrations: naomi@paris.tokyo  
Website: Masayo Takehita (Ujije planning office)  
Booklet Design: Takeshi Furuhata (FLAGS)  
Program Design: Takeshi Kobayashi (UNA)  
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews  
Merchandise: Jun Watanabe  
Japanese Writing (Production Pages): Rioko Suzuki  
Program Coordinator: Masahiko Yokobari  
Chinese Program Coordinator: Hitomi Oyama  
Online Magazine Editor: Taisuke Shimazaki  
Interns: Yu Ichikawa, Nagisa Inoue, Minako Iwai, Satomi Utsui, Mayu Umemura, Rong Zhuran, Rikka Katase, Shiori Kitamura, Rei Kudo, Natsumi Kuriyama, Sara Gomare, Mana Kamioka, Hoon Go, Ayano Kobayashi, Haruna Kobayashi, Mizuki Sawa, Mana Tsuruta, Rin Terada, Natsumi Nishi, Ayano Nishimoto, Asuka Neguchi, Tamako Noto, Hitomi Nomoto, Aoi Hashimoto, Misaki Hayashi, Kotono Horikoshi, Natsuki Miyasaka, Emi Murakami, Ayana Yamamoto, Mai Yamamoto, Saki Yokomi  
Special thanks to the FT Volunteer Supporters  
Organizers: Festival/Tokyo Executive Committee, Toshima City, Toshima Future Culture Foundation, NPO Arts Network Japan (NPO-ANJ), Arts Council Tokyo & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)  
Opening production co-organized by the Japan Foundation Asia Center  
Sponsored by Asahi Group Holdings, Ltd., Shiseido Co., Ltd.  
Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEIDANNYO, J-WAVE 81.3 FM  
Special cooperation from SEIBU IKBUKUROHONTEN, TOBU DEPARTMENT STORE IKBUKURO, TOBU RAILWAY CO., LTD., Sunshime City Corporation, Chaco Co., Ltd., HUMAX CINEMA INC.  
In cooperation with Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association, Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr, Ikebukuro West Gate Park Management, Neighborhood of the Minami Ikebukuro Park, Hotel Tesobutan Tokyo, Hotel Grand City, Ikebukuro Hotel Association  
PR Support: Poster Hari's Company, Waseda University Tsuibuchi Memorial Theatre Museum, UPLINK  
Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2017  
Period: September 30th (Sat) to November 12th (Sun), 2017

# わたしが悲しくないのは あなたが遠いから

作・演出: 柴 幸男

“In our distance, there is no sorrow.”  
Written and Directed by Yukio Shiba

2017.  
10.7 Sat - 10.15 Sun  
東京芸術劇場 シアターイースト/ウエスト  
Tokyo Metropolitan Theatre (Theatre East / Theatre West)

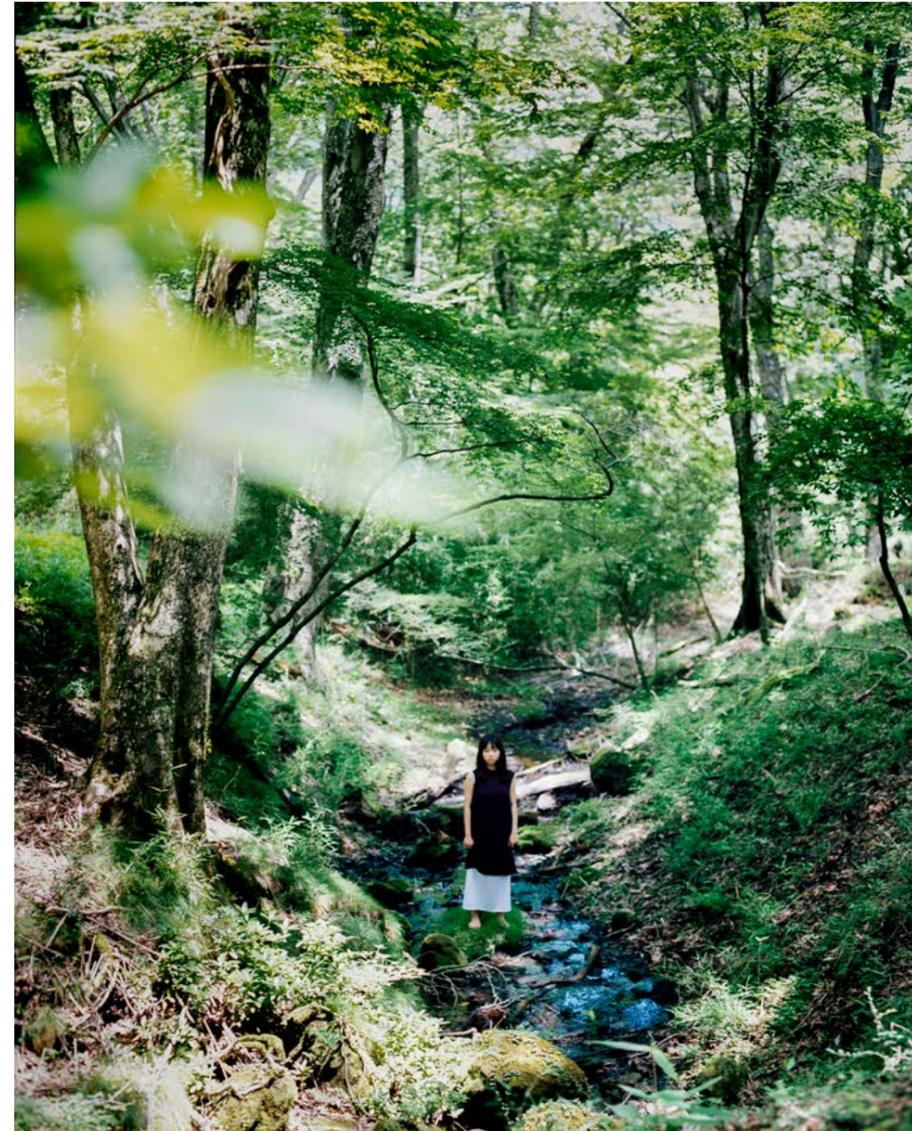


Photo: Hideaki Hamada



tokyo-festival.jp

**柴 幸男**（劇作家・演出家・ままごと主宰）

思えば、つくづく幸福に生きてきたと感じます。現在進行系で幸福で、できれば今後も幸福に死んでいきたいと願っています。

本作は東日本の震災から構想を得た作品だと様々な場所で言ってきました。僕は、あどとき岐阜県にいて、揺れを感じることはありませんでした。震災の様子はテレビやネットで見ていました。その後、僕は、東京に、福島に行くことになります。その過程でいつのまにか物理的な距離が、心理的な距離に変わったと感じました。それを埋める作業として、僕がとった方法は人に会うこと、足を運ぶこと。

このときから距離について考えはじめました。

物理的な距離と心理的な距離の関係について。共感について。遠くの悲劇について。

それらを眼前で演じる演劇を使って描けないか、それが本作の構想のはじまり。そう、思っていました。しかし、実際に創作するうちに、それは違ったと考えるようになりました。

僕は、小学生のとき、阪神淡路の震災を経験しました。あどとき僕は、実家の愛知県にいて、大きな揺れで目を覚ましました。僕の人生の中で最も大きな揺れだったと記憶しています。しかし、僕も、僕の家も町も、無傷で、命の別状も生活の変化もなく、その日もいつも通り学校に向かいました。教室のテレビで震災の様子を見たことを憶えています。中学生のとき、兵庫県須磨区で起こった殺人事件の様子をテレビで見っていました。大学生のとき、一人暮らししていたアパートで、9.11を見ました。創作の過程でそれらを思い出し、僕は常に外側ではないか、と感じたのです。遠かったのは東日本の震災だけでなく、思い出せるすべての悲劇が僕から遠かった。だから、これは偶然にも、安全で、幸福に生き続けてきた、僕のような人間の物語なのです。

幸福な空間と、悲劇の空間の距離は何をもたらすのか。それぞれの場所にいる、それぞれの人々は、何を考えるのか。偶然にも、幸福に／不幸に、生きる／死ぬとはどういうことか。幸福に生き続けている僕の隣には、偶然にも死に続ける存在がいるのかもしれない。誰かが死に続けているおかげで、僕は生き続けているのかもしれない。その発想こそ、本作の構想の根幹となりました。

僕は今、すべては偶然だと考えています。どこか間違っている気もしますが、今はそう考えています。だから今、僕はできるだけ偶然というものに、身を任せて生きていこうと思っています。それが幸福でも、悲劇でも、役割を受け入れたいと考えています。

今回、偶然にも台湾との国際共同製作ができたことは、とても有意義でした。おそらくこの経験は、僕を、僕をとりまく場所を、変えていくと予感します。

本日はご来場ありがとうございました。これからも演劇と共に、様々な事象について考えていきたいです。よろしく願います。

## 演劇と距離と歴史のはなし

## 水谷八也

（早稲田大学文化構想学部 文芸ジャーナリズム論系 教授）

「ま、遠くから自分のこと見られれば、いいですよね。そういうふう。」

柴幸男の新作が「距離」をテーマにしたものになるなんて聞いて、すぐ思い出したのが、平田オリザの『東京ノート』のこのセリフだった。これはフェルメールの絵を説明する美術館の学芸員のことばで、「望遠鏡で宇宙からこっちを見ているように見られれば」という意味なのだが、フェルメールが生きた17世紀は近代の入口で、望遠鏡などの視覚機器が発達して、人は見たいものを見たい構図で描くようになったとやんわり近代を批判する彼は、先の言葉でボンッと「距離」を語っている、この距離が「近代」には欠けていると言いたげに。

『東京ノート』は平田オリザが提唱する現代口語演劇の精華であり、日本の近代リアリズム演劇の極致である。平田オリザは先の引用のように、リアルな『東京ノート』の中で、その学芸員に近代の視野の狭さを語らせ、近代演劇の限界に自ら言及すると同時に、現代口語演劇の次の方向性を示唆しているようにも読める。

その方向を作品化したのが柴幸男だ。その典型が『四色の色鉛筆があれば』の中の「ハイパーリンクン」。ここに物語はない。何もない舞台上に散らばる10人の役者には役名すらなく、誰もがリンクンになる。ジャンプしながら円周率や科学史をラップで語っていく彼らは、次第に一列になると、荒い息の中で科学が答えられない根源的な問いを口にする。「私達は何を知っていますか? /何を知りませんか? /いつまでいますか? /なぜいますか? /いま、どこにいますか?」そして中の一人が「私達がどこにいて、どこまで行けるのか、旅に出ます」と言うど、彼らは舞台上で小さな円になり、そこから10のn乗ずつ世界を言葉で広げ、最後は10の26乗、100億光年まで空間を拡大する。暗闇の中、観客は語られる言葉と想像力だけで「宇宙からこっちを見る」状況に置かれる。この作品で柴幸男は近代演劇の「リアル」を捨て、100億光年の「距離」を取った。そして『四色』

の中の数々の実験は岸田戯曲賞受賞作『わが星』に活かされることになる。『わが星』は何もない舞台上、地球の誕生から消滅までを一人の少女の一生に重ねるというおおよそ近代演劇では不可能な状況をラップで語っていく。岸田戯曲賞の選評で宮沢章夫は「〈アンチテアトル〉であることなどそこには存在しない。それは自明だからだ……遠い宇宙の彼方からわたしたちはごく小さい存在であり、しかし、そのカメラを接近すれば、内宇宙がわたしたちの体の内部で蠢いている」と『わが星』の距離の取り方を語っている。そして「いま、演劇は、これまでとはまた異なる方法によって演劇ならではの新しい地平のひとつを切り開いた」とまとめている。「距離」のことを考えると、柴幸男の新しさは、平田オリザをジャンピング・ボードとして生まれてきたかのようである。

柴幸男は『わが星』以後も、劇場の外に出るなど、新しい演劇の「方法」を常に模索し続けている。演劇の約束事や慣習をことごとく無視、時に笑いのめし、きっぱりと近代/演劇に背を向けながら。だが彼が抗っているのは近代なのか、演劇なのか？ もちろん演劇を作り続けているのだから、抗っているのは近代。いや、近代演劇から演劇の可能性を救い出すために近代に抗っているのだ。だから当然近代とは相いれないものに接近する。そう考えると、その距離の造り方も納得できる。

演劇はどの国でも宗教儀式から発生し、人は長らく神の前で演じていた。古代ギリシアや大宇宙・小宇宙（人間）が呼応していたエリザベス朝の舞台でも、神仏が現れる老松を背景にした能舞台でも、かつて演劇は横軸だけの人間世界に、絶対的距離を持つ縦軸（神）を導入することで自分たちの現実の姿を見ようとしていた、羅針盤のない時代に船乗りが星や太陽を見て現在地を確認したように。

そんな前近代の演劇には神以外にも共通する要素がたくさんある。裸舞台、男優のみ、そして何より想像力! 観客は詩的なセリフで想像力を燃え立たせ、何もない舞台にすべてを見ていたのだ。笑いと悲惨、喜劇と悲劇、同居する多様な生と死。たとえば、地球の名を持つ劇場で上演されたシェイクスピアの悲劇にはお笑いがあり、能と狂言が同じ舞台上で上演されていたり。そして人は遠大な距離の向こうの神との関係を確認し、安堵と同時に人間の無力、はかなさを痛感し、人の現在地を確認していたのだ。しかし近代は演劇のこういう機能を棄て去った。そして柴幸男はそんな近代に抗っているのだ、80年前のワイルダーと同じように。

ワイルダーの『わが町』の中で、死者となったエミリーは生きてる人を「小さな箱に閉じ込められているみたい」と言う。その小さな箱から抜け出すために、ワイル

ダーは何もない舞台に「死」を持ち込んで距離を取った。

2017年、混沌とした時代の大転換期に生きる私たちに

は、「近代」という小さな箱から脱出するために、距離

が必要なのだ。そして多様な現実の中で、私たちは現

在地を知り、新たな存在の作法を探る必要がある。来

るべき未来はその現在地からしか生まれまいだろう。

さて、柴幸男は今日、「距離」を造って、どんな風景を見せてくれるのだろう。

でも、柴さんは笑ってもう一度こう言いました。

「制限をかけずに。」

私は本当に驚きました。いきなり楽曲のすべてを託されたことで、音楽家として自分の足りない部分にも気付かされました。そして、私はこう思いました。柴さん、かつこ良すぎでしょ。そんなに私のこと信頼できますか？

とても頭が混乱した一方で、本当にわくわく興奮しました。音楽プランは計画の始めからこんなに特別なものだった、そう思える作品に参加できたことは本当に光栄です。だって演出家は音楽家を信頼しているからこそ、こういう難しい決定をできたのだから。音楽家としてこれだけの幸運に恵まれたので、今回の作品で私は私自身の代表作に出会えるでしょう。

お世話になった皆様に、心より感謝を。

※1：『甦』日本311 週年公益影片（金馬獎最佳紀錄片導演楊力州力作）

でも、柴さんは笑ってもう一度こう言いました。「制限をかけずに。」私は本当に驚きました。いきなり楽曲のすべてを託されたことで、音楽家として自分の足りない部分にも気付かされました。そして、私はこう思いました。柴さん、かつこ良すぎでしょ。そんなに私のこと信頼できますか？

とても頭が混乱した一方で、本当にわくわく興奮しました。音楽プランは計画の始めからこんなに特別なものだった、そう思える作品に参加できたことは本当に光栄です。だって演出家は音楽家を信頼しているからこそ、こういう難しい決定をできたのだから。音楽家としてこれだけの幸運に恵まれたので、今回の作品で私は私自身の代表作に出会えるでしょう。

お世話になった皆様に、心より感謝を。

※1：『甦』日本311 週年公益影片（金馬獎最佳紀錄片導演楊力州力作）

でも、柴さんは笑ってもう一度こう言いました。「制限をかけずに。」

私は本当に驚きました。いきなり楽曲のすべてを託されたことで、音楽家として自分の足りない部分にも気付かされました。そして、私はこう思いました。柴さん、かつこ良すぎでしょ。そんなに私のこと信頼できますか？

とても頭が混乱した一方で、本当にわくわく興奮しました。音楽プランは計画の始めからこんなに特別なものだった、そう思える作品に参加できたことは本当に光栄です。だって演出家は音楽家を信頼しているからこそ、こういう難しい決定をできたのだから。音楽家としてこれだけの幸運に恵まれたので、今回の作品で私は私自身の代表作に出会えるでしょう。

お世話になった皆様に、心より感謝を。

※1：『甦』日本311 週年公益影片（金馬獎最佳紀錄片導演楊力州力作）

在地を知り、新たな存在の作法を探る必要がある。来

るべき未来はその現在地からしか生まれまいだろう。

さて、柴幸男は今日、「距離」を造って、どんな風景

を見せてくれるのだろう。

でも、柴さんは笑ってもう一度こう言いました。

「制限をかけずに。」

私は本当に驚きました。いきなり楽曲のすべてを託

されたことで、音楽家として自分の足りない部分にも気付かされました。そして、私はこう思いました。柴さん、かつこ良すぎでしょ。そんなに私のこと信頼でき

ますか？

とても頭が混乱した一方で、本当にわくわく興奮しま

した。音楽プランは計画の始めからこんなに特別なものだった、そう思える作品に参加できたことは本当に光栄です。だって演出家は音楽家を信頼しているから

こそ、こういう難しい決定をできたのだから。音楽家としてこれだけの幸運に恵まれたので、今回の作品で私は私自身の代表作に出会えるでしょう。

お世話になった皆様に、心より感謝を。

※1：『甦』日本311 週年公益影片（金馬獎最佳紀

録片導演楊力州力作）

でも、柴さんは笑ってもう一度こう言いました。

「制限をかけずに。」

私は本当に驚きました。いきなり楽曲のすべてを託

されたことで、音楽家として自分の足りない部分にも

気付かされました。そして、私はこう思いました。柴

さん、かつこ良すぎでしょ。そんなに私のこと信頼でき

ますか？

とても頭が混乱した一方で、本当にわくわく興奮しま

した。音楽プランは計画の始めからこんなに特別なも

のだった、そう思える作品に参加できたことは本当に

光栄です。だって演出家は音楽家を信頼しているから

こそ、こういう難しい決定をできたのだから。音楽家と

してこれだけの幸運に恵まれたので、今回の作品で

私は私自身の代表作に出会えるでしょう。

お世話になった皆様に、心より感謝を。

※1：『甦』日本311 週年公益影片（金馬獎最佳紀

録片導演楊力州力作）

出演：大石将弘（ままごと | ナイロン100℃）
岡田智代
小山薫子
串尾一輝（青年団）
鈴木正也
椿真由美（青年座）
野上絹代（FAIFAI | 三月企画）
端田新菜（ままごと | 青年団）
藤谷理子
森岡 光（不思議少年）

作・演出：柴 幸男（ままごと）
演出助手：きまたまき
舞台監督：山下 翼、高橋淳一
舞台美術：青木拓也
舞台美術補佐：演劇賢二
音楽：柯 智豪 -Blaire KO-
音響：星野大輔（サウンドウィーズ）
音響操作：反町瑞穂（Sugar Sound）
音響補佐：大矢紗璃
照明：鎌谷亮也
照明操作：しもだめぐみ、三嶋聖子
映像：鹿野 輝（WOW | 未来演団画工作）、曾根宏輔（東北工業大学）、稲垣拓也（WOW）、齋藤勇樹（WOW）
映像テクニカル：須藤崇規
映像操作：三上 亮、樋口勇輝、伊藤堡里
衣裳：TRAN 泉
衣裳コーディネーター：林 爽豪 -Keith LIN-
空間構成（エントランス）：安藤優子（デザインムジカ）
宣伝写真：Ivy Chen、演出英明
宣伝写真・メイク：藍塚明寿美
宣伝美術：原田祐馬（UMA / design farm）
記録：陳 冠宇 -Kuan-Yu CHEN-
字幕翻訳・クリス・グレゴリー
字幕翻訳監修：水谷八也
特設WEB編集：落 雅季子（LittleSphony）
広報協力：ポラ美術館
特別協力：急な坂スタジオ
協力：株式会社オ波斯、レトル、青年座、青年団、ナイロン100℃、スイッチ総研、FAIFAI、不思議少年、三月企画
制作：足川真由子（フェスティバルトーカー）、加藤仲葉（ままごと）
制作統括：河合千佳（フェスティバルトーカー）、一般社団法人mamagoto
助成（2016年度 作品創作リサーチに対して）：公益財団法人セゾン文化財団

国際共同製作：フェスティバルトーカー、台北パフォーミングアーツセンター
助成：台湾文化部
協力：台北市政府文化局、財団法人台北市文化基金会、台北駐日経済文化代表処、台湾文化センター
リサーチ・ワークショップサポート：パフォーミング・アーツ・アライアンス、CO3、台南市政府文化局

Performers: Masahiro Oishi (mamagoto, NYLON100C), Tomoyo Okada, Kaoruko Oyama, Kazuki Kushio (Seinendan), Seiya Suzuki, Mayumi Tsubaki (Seinenza), Kinuyo Nogami (FAIFAI, march project), Niina Hashida (mamagoto, Seinendan), Riko Fujitani, Hikaru Morioka (Fushigishonen)

Written and Directed by Yukio Shiba (mamagoto)
Assistant Directors: Maki Kimata
Stage Managers: Tsubasa Yamashita, Junichi Takahashi
Stage Design: Takuya Aoki
Stage Design Assistant: Kenji Hamasaki
Music: Blaire KO
Sound: Daisuke Hoshino (Sound Weeds Inc.)
Sound Operator: Mizuho Sorimachi (Sugar Sound)
Sound Assistant: Sae Ohya
Lighting: Ryoeya Fudetani
Lighting Operator: Megumi Shimoda, Shoko Mishima
Video: Mamoru Kano (WOW / Futurismo Zugaousaku), Hiroobu Sone (Tohoku Institute of Technology), Takuya Inagaki (WOW), Yuki Saito (WOW)
Video Technician: Takaki Sudo
Video Operator: Ryo Mikami, Yuki Higuchi, Yuri Ito
Costumes: TRAN
Costume Coordinator: Keith Lin
Entrance Design: Ryoiko Ando (DESIGN MUSICA)
Publicity Design: Ivy Chen, Hideaki Hamada
Publicity Hair & Makeup: Asumi Washizuka
Publicity Design: Yuma Harada (UMA / design farm)
Documentation: Kuan-Yu Chen
Surtitles: Christopher Gregory
Surtitles Supervisor: Hachiya Mizutani
Production Website Editor: Makiko Uchi (LittleSphony)
Publicity supported by Pola Museum of Art
Special cooperation from Steep Slope Studio
In cooperation with OPOSS INC., letre, Seinenza Film Production, Seinendan, NYLON100C, Switch Research Institute, FAIFAI, Fushigishonen, march project
Production Coordinators: Mayuko Arakawa (Festival/Tokyo), Nakaba Kato (mamagoto)
Production Managers: Chika Kawai (Festival/Tokyo), Takuo Miyanaga (mamagoto, ZuOnZ)
Taiwan Coordinator: Yukio Nitta
Intens: Sara Gunnare, Haruna Kobayashi, Misaki Hayashi, Mai Yamamoto
Front of House: Urara Tsukuni (Kamiguse, Suichumegane∞), Niina Sugai
Presented by Festival/Tokyo, mamagoto
Supported by The Saison Foundation

Co-produced by Festival/Tokyo, Taipei Performing Arts Center
Supported by the Ministry of Culture (Taiwan)
In cooperation with Department of Cultural Affairs, Taipei City Government; Taipei Culture Foundation; Taiwan Cultural Center, Taipei Economic and Cultural Representative Office in Japan
Research and workshop supported by Performing Arts Alliance, CO3, Tainan City Government

中表臺心演北藝術
文化庁
MINISTRY OF CULTURE
台北市文化局
Taipei Culture Foundation
POLA MUSEUM OF ART
臺南市政府文化局